

I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 61

Mary Osborne 【メアリー・オズボーン】

～ジャズ全盛期に活躍した女性ジャズ・ギタリスト～

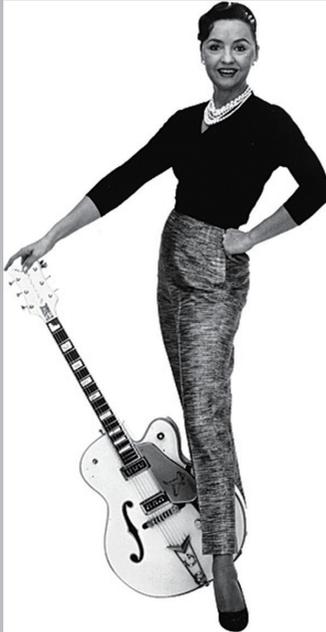


Photo : Mary Osborne "A Girl and Her Guitar" (Reyes)

Profile

1921年7月17日、米国ノース・ダコタ州マイノット生まれ。母親はギター、父親はヴァイオリンを弾く音楽一家で育つ。幼少期はピアノ、ウクレレ、ヴァイオリン、バンジョー等を弾き、9歳の頃にギターを弾き始める。10歳の頃に父親のラグタイムバンドでバンジョーを弾き始める。12歳の時に女子だけのトリオを結成し、ノース・ダコタ州ビスマークで演奏を始める。この頃ラジオ・ショーでも活躍。15歳の時にユニフレッド・マクドネルのトリオに参加し、ギターの他にウッドベースやヴォーカルも担当。この頃チャーリー・クリスチャンを聴いて衝撃を受け、そのギタースタイルを学ぶ。その後、マクドネルのトリオでバディ・ロジャースのバンドに参加するが、40年にNYに移った後にトリオは解散。この頃にラルフ・スキヤフィーディと結婚。41年にジョー・ヴェヌーティとツアーに出る。42年はシカゴで活動し、45年にはフィラデルフィアでディジー・ガレスピー、コールマン・ホーキンス等と共演の機会を得る。同年NYに戻り、メアリー・ルー・ウィリアムスとレコーディングを行う。45年から48年まで自身のトリオで活動。50年代にはラジオ番組「ザ・ジャック・スターリング・ショー」やテレビ番組「アーサー・ゴドフリー・タレント・スカウト」に出演。62年よりアルベルト・ヴァルデス・ブレインのもとでスパニッシュ・ギターを学び始める。68年にカリフォルニア州ペーカースフィールドに移り、夫と共にオズボーン・ギター・カンパニーを始める。その後は音楽を教えたり、LAで演奏活動を行う。70年代以降もジャズ・フェスティバルに出演する等、晩年まで演奏活動を続けた。1992年3月4日、中皮腫瘍のためカリフォルニア州ペーカースフィールドで息を引き取る。享年70歳。

MO's Great Album

リーダー・アルバム以外、他のアーティストのアルバムへの参加も数少ないが、YouTube ではビリー・ホリデイのバックで粋なギターを弾く姿を見ることができます。

男勝りにスイングするメアリーのギターが冴え渡るリーダー作品



ア・ガール・アンド・ハー・ギター メアリー・オズボーン

(Warwick : W-2004) [Import CD]

メアリー・オズボーン (g)、ダニー・パーカー (g)、トミー・フラナガン (p)、トミー・ポッター (b)、ジョー・ジョーンズ (ds)

1. アイ・ラヴ・パリス 2. アイ・レット・ア・ソング・ゴー 3. ハウ・ハイ・ザ・ムーン 4. ホエン・ユア・ラヴァー・ハズ・ゴーン (他、全 11 曲)

メアリー・オズボーンの 1970年代の貴重なライブ盤



ナウ・ザ・タイム メアリー・オズボーン

(Halcyon Records : HAL-115) [Import LP]

メアリー・オズボーン (g)、ヴァイ・レット (as)、マリアン・マクパートランド (p)、リン・ミラノ (b)、ドットィ・ドジョン (ds)

[Side A] 1. ナウ・ザ・タイム 2. ソフィスティケート・レディ 3. イン・ナ・メロー・トーン 4. ローラ [Side B] 1~4 (他、全 8 曲)

メアリー・オズボーンの オリジナル・カプリング作品



ナウ・アンド・ゼン メアリー・オズボーン

(Slash Records : ST-215) [Import LP]

メアリー・オズボーン (g)、スティーヴ・ラスビーナ、トミー・ポッター (b)、チャーリー・パーシップ、ジョー・ジョーンズ (ds)、他

[Side A] 1. ソフト・ウィンズ 2. エミリー 3. オルフェのサンバ 4. ラヴ・ユー・ドレロー 5. ゴッドブレスザチャイルド (他、全 12 曲)

スタンダード曲をメインにスイング感漲るメアリーのギターが炸裂。バックには名手トミー・フラナガン、ダニー・パーカー、バードとの競演でも知られるベスのトミー・ポッター、ジョー・ジョーンズという凄い顔ぶれが揃っている。「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」「メアリーズ・グッバイ・ブルース」がお気に入り。多大な影響を受けたチャーリー・クリスチャンの面影も感じ、歯切れも良く男勝りのギターが心地良すぎる。1959年録音。

人気ピアニストのマリアン・マクパートランドのレーベル Halcyon Records からリリースされた 1977 年録音のライブ盤。会場は NY 州ロチェスターのモンティチェロ・ルーム。メアリー以外の 4 人のメンバーも全員女性アーティストで、タイトル曲の「ナウ・ザ・タイム」から「ローラ」「アイル・リメンバー・エイプリル」等、スタンダードを中心に 8 曲を収録。メアリー・オズボーンの 55 歳の時の円熟したギタープレイが素晴らしい。

A 面はメアリー・オズボーンとベスのスティーヴ・ラスビーナ、ドラムのチャーリー・パーシップとのトリオで吹き込んだ 6 曲。B 面は 1959 年に録音されたアルバム『ア・ガール・アンド・ハー・ギター』からの 6 曲を収録した 1982 年発表のカプリング・アルバム。メアリーのギターが奏でるスタンダード・ナンバーが味わい深く、オープニングを飾るベニー・グッドマンとチャーリー・クリスチャン作の「ソフト・ウィンズ」はお薦め。

チャーリー・クリスチャンとの遭遇

15 歳の時にユニフレッド・マクドネルのトリオに参加し、ギターの他にウッドベースやヴォーカルも担当したメアリー。当時拠点にしていたノース・ダコタ州ビスマークにやって来たアル・トレントのバンドでギターを弾くチャーリー・クリスチャンを聴いて強い衝撃を受けた。直ぐにエレクトリック・ギターを購入し、友人にアンプを作ってもらい、そのギタースタイルを学んだ。最初にチャーリー・クリスチャンのギターを聴いたメアリーはサクセスと勘違いしたという逸話もあるが、この遭遇がなかったら、メアリーのギタースタイルも変わっていたかもしれない。

女性ジャズ・ギタリストの第一人者

女性ジャズ・ギタリストの草分け的存在、第一人者と称されるメアリー。その登場以降、女性ジャズ・ギタリストが活躍している。マイク・スターン夫人のレニ・スターン、セロニアス・モンク・国際ジャズ・コンクールでギター部門 3 位に入賞したシェリル・ベイラー。32 歳の若さで急逝したエミリー・レムラー。ニュージャーシー出身のジョイス・クーリング。今年デビュー作を発表したジョセリン・グールド。日本ではギブソン・ジャズ・ギターコンテストで最優秀ギタリスト賞を受賞した志賀由美子。近年では福島出身の浅利史花も注目されている。

Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.34 ~ Central Park West [セントラル・パーク・ウェスト] ~

この曲はジョン・コルトレーンが作曲し、1960 年 10 月 24 日に録音された曲でアルバム『コルトレーン・サウンド (夜は千の眼を持つ)』の 2 曲目に収録されたバラード・ナンバー。アルバムではコルトレーンが美しいソプラノ・サクセスで奏で、NY マンハッタンに広がるセントラル・パークのウェストサイドをテーマにした曲。多くのアーティストたちにカバーされており、セントラル・パークを訪れてみるとこの曲の素晴らしいさに実感させられる。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- ジョン・コルトレーン『コルトレーン・サウンド (夜は千の眼を持つ)』
- トミー・フラナガン『ジャイアント・ステップス』
- 大坂昌彦 & 原朋直クインテット『ストリート & アベニュー』
- アビシャイ・コーエン『デュエンデ』
- ラケシア・ベンジャミン『パースエンス : ザ・コルトレーンズ』